

# CANVAS

## VOLUME



Canvas Volume をお選びいただきありがとうございます。最大音量（または最小音量）のコントロールを求めらるあらゆる場面で活躍します。

本機には摩耗したり、ガリが出たり、演奏中に故障したりする機械的なリンク機構（ストリング・ギア）やポットが使用されていないため、安心してボリューム奏法（ボリュームスウェル）を行えます。

フットペダル下部にあるコントロールを確認し、あなたの演奏スタイルに合うフィーリングとレスポンスに Canvas Volume を調整してください。



- ← OUT RIGHT / TUNER OUT
- ← OUT LEFT
- ← IN RIGHT
- ← IN LEFT



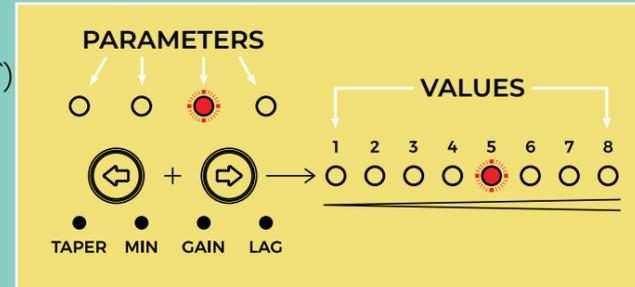
# CONTROLS

Canvas Volume のユーザーインターフェースは、ペダルのかかと側の下に配置されています。矢印で方向が示された2つのボタンがあり、その上に4つのパラメーターLEDがあります。これら4つのLEDは、現在選択され編集可能なパラメーターを示します。



パラメーターは以下の4種類です：

TAPER (テーパー) / MINIMUM ON (ミニマム・オン) / GAIN (ゲイン) / LAG (ラグ)  
各パラメーターには8段階の設定があり、ボタンの右側にある8つのバリューLEDで現在の設定値が表示されます。



パラメーターの編集方法：

右または左のボタンを押して、編集したいパラメーターを選択します。

パラメーターを切り替えると、それぞれの現在の設定値がバリューLEDに表示されます。

選択中のパラメーターの値を上げるには、

左ボタンを押し続けながら右ボタンをクリックします。

値を下げるには、

右ボタンを押し続けながら左ボタンをクリックします。

## TAPER

ボリュームペダルにおけるテーパーとは、ペダルを踏み込む動作に対して信号レベルがどのようなカーブで変化するかを指します。これは、ペダル操作時のボリューム変化の「フィーリング」を決める最も重要なパラメーターです。

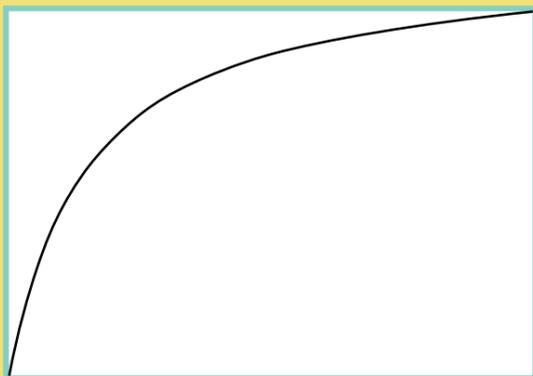
Canvas Volume には、8種類のテーパーが用意されています。

それぞれ実在するボリュームペダルをモデルにしており、ペダルの踏み込みに対する反応が異なります。

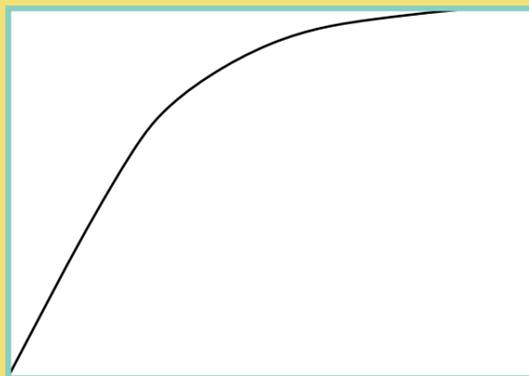
Taper 1 は Canvas Volume 専用にカスタム設計されており、ギタリスト向けに非常にスムーズなレスポンスを提供することを目的としています。

Tapers 2~6 は、人気のボリュームペダルを基にした、より伝統的なオーディオテーパーです。

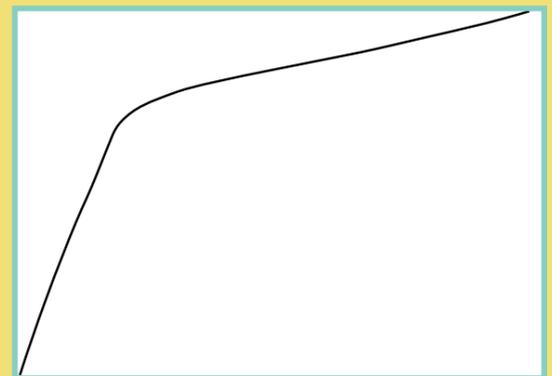
Tapers 7 と 8 は、ペダルスティール奏者に好まれる、よりリニア (直線的) なレスポンスを持つペダルのモデルです。



**TAPER 1**  
Canvas Taper



**TAPER 2**  
Lehle Model



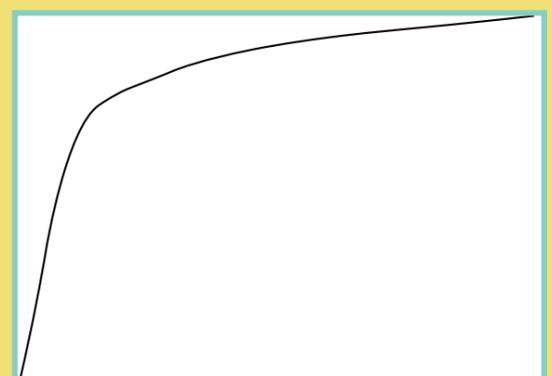
**TAPER 3**  
Boss Model



**TAPER 4**  
Dunlop Model

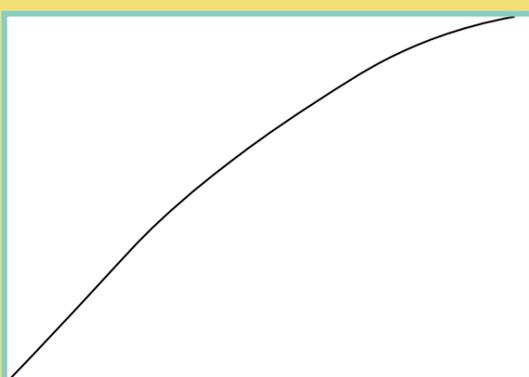


**TAPER 5**  
Ernie Ball VP Jr Model

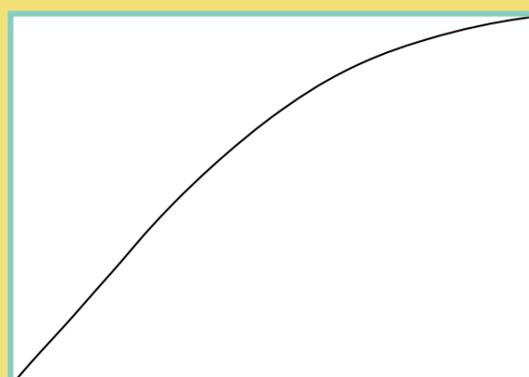


**TAPER 6**  
Hotone Model

**TAPER 7**  
Hilton Model



**TAPER 8**  
Goodrich Model



## MINIMUM ON

初期設定ではこのパラメーターは最小に設定されており、ヒールダウン時に約 -90dB の最大減衰(ほぼ無音)を提供します。

この設定値を上げていくと、最大減衰量が減少し、ヒールダウン時でも音量が上がり、わずかに信号が通るようになります。

この設定を上げるほど、ペダルを踏み始めたときに、より早い段階で音量が大きくなります。これは、より減衰の少ない位置からスタートするためです。

## GAIN

このパラメーターは、ペダルがトゥダウン(つま先側を踏み切った状態)のときの音量を設定します。

初期設定は Position 5(ユニティゲイン/0dB) です。

- Position 5より下の設定の場合、トゥダウン時の最大音量がユニティゲインより小さくなります。
- Position 5より上の設定の場合、トゥダウン時の最大音量が上がり、3dB刻みで最大+9dB (Position 8) までブーストされます。

### Tech Tip:

入力信号が大きすぎて歪みなどの問題が出る場合は、ゲインを下げると有効です。

小さい信号をユニティ以上に持ち上げたい場合は、ゲインを上げると効果的です。



## LAG

Lagパラメーターを使うと、ペダルのボリューム反応に遅延を加えることができ、操作時のフィーリングやサウンドをさらにスムーズにします。

初期設定はPosition 1(最速レスポンス)です。

Position 8 では、実際のペダル位置に対してボリューム反応が最大2000ms(2秒)遅れて追従し、信号レベルの上げ下げ時に滑らかなラグ効果を生み出します。

これは、オート・ボリュームスウェルや、ユニークな「エンベロープ効果」など、クリエイティブな用途にも活用できます。



## SIGNAL ROUTING

Canvas Volumeは、使用環境や目的のシグナルフローに最適に対応できるよう、複数のシグナル・ルーティングオプションを備えています。

**Mono in, Mono Out, Tuner Out:** 楽器をIN L ジャックに、アンプをOUT L ジャックに、チューナーをTunerジャックに接続します。

Tuner Outはバッファーを通ったフルボリュームの信号が常時出力され、チューナーへ安定した信号を送ります。

**Stereo In, Stereo Out:** 左チャンネルと右チャンネルの入力信号を、それぞれIN LとIN Rジャックに接続します。次段のステレオ機器の入力をOUT LとOUT R ジャックに接続すると、ステレオ信号全体のボリュームをコントロールできます。

**Mono In, Dual Mono Out:** このモードは、信号を2系統に分岐して別々の機器へ送る場合や、ステレオ・エフェクトチェーンを開始する場合に使用します。

楽器をIN L ジャックに接続すると、その信号がOUT LとOUT Rの両方から出力され、両方にボリュームコントロールが適用されます。

このモードの設定方法については、\*\*Utility Menu(ユーティリティメニュー)\*\*の項目を参照してください。



## UTILITY MENU

Utility Menu (ユーティリティメニュー) への入り方

ユニットの電源投入時に、2つのボタンを同時に押し続けてください。  
8つすべてのバリューLEDが単色で点灯したら、ボタンを離します。

4つのパラメーターLEDは、それぞれ実行可能な4種類のユーティリティ機能を示します。  
左右のボタンを押してスクロールし、実行したいユーティリティ機能を選択してください。

### Factory Reset - Purple

ファクトリーリセットを実行するには、Utility Menu に入り、紫色のLEDまでスクロールします。  
その状態で左ボタンを押し続け、紫のLEDが点滅し始めたらボタンを離してください。

ペダルが再起動し、すべての設定が工場出荷時のデフォルトに戻ります。

注意：ファクトリーリセットを行った場合は、必ずペダルの再キャリブレーション (再調整) が必要になります。

### Sensor Calibration - Red

ペダル位置センサーをキャリブレーション (調整) するには、Utility Menu に入り、赤色のLEDまでスクロールします。  
左ボタンを押し続け、赤いLEDが点滅し始めたらボタンを離してください。

安定した平らな場所に置いた状態で、ペダルをヒールダウン (かかと側) からトゥダウン (つま先側) まで、ゆっくりと2~3回往復させます。

その後、再度左ボタンを長押しし、LEDが点滅し始めたら離します。  
ペダルが再起動し、新しく保存されたキャリブレーション設定が適用されます。

### Mono Mode - Yellow

初期設定では、モノラル接続時に右側の出力ジャック (OUT R) はユニティゲイン固定となり、チューナーアウトとして機能します。

モノラル接続時の右出力ジャックの動作を変更するには、Utility Menuに入り、黄色のLEDまでスクロールしてください。  
現在のモードは、1番目または2番目のバリューLEDで表示されます。

Value 1: OUT R (右出力) = モノラル接続時に Tuner Out として動作

Value 2: OUT R (右出力) = モノラル接続時に Dual Mono Out として動作

左右のボタンを使って、希望するモードにLEDを移動させます。  
選択が完了するとLEDが点滅し、ペダルが再起動します。その後、モノラル接続時には新しく選択したモードで動作します。

### DFU - Blue

DFU モードに入るには、Utility Menu に入り、青色のLEDまでスクロールします。  
その状態で左ボタンを押し続け、青いLEDが点滅し始めたらボタンを離してください。

これでペダルは DFUモード で起動します。

注意：DFUモードへの移行は、Walrus Audio のカスタマーサポートから指示があった場合にのみ行ってください。  
誤ってこのモードに入ってしまった場合は、ペダルの電源を一度切って再投入すれば、通常動作で起動します。

## DRAG ADJUSTMENT

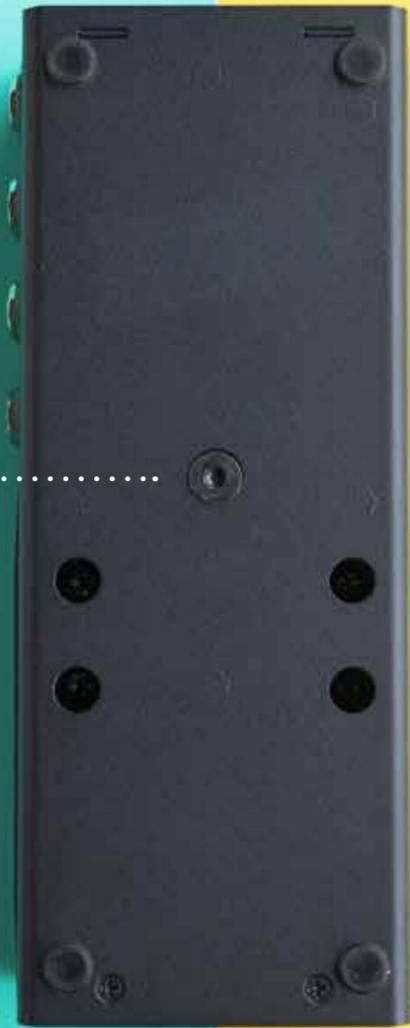
Canvas Volumeでは、トレッドル(ペダル)のテンション、つまり動かしたときの抵抗感(ドラッグ)を調整できます。これにより、ペダル操作時の摩擦感を強めたり弱めたりすることが可能です。

ドラッグを調整するには、ペダル底面にある4mmの六角ネジを確認してください。  
4mmの六角レンチを使用し、

時計回りに回すとドラッグ(抵抗)が強くなります。

反時計回りに回すとドラッグ(抵抗)が弱くなります。

調整する際は、必ず半回転(180度)ずつ行ってください。



## SPECS

入力インピーダンス:1M $\Omega$

出力インピーダンス:330 $\Omega$

周波数特性:20Hz ~ 20kHz

入力端子:2系統、1/4インチ アンバランス TS

出力端子:2系統、1/4インチ アンバランス TS

USB-C:walrusaudio.io 経由のファームウェアアップデート用

電源要件:アイソレートされた 9VDC、センターマイナス、最低 300mA

サイズ

高さ:1.9インチ / 48mm

幅:3.6インチ / 91mm

奥行:8.9インチ / 225mm

重量:2.2 lbs(約1.0kg)



## WALRUSAUDIO.IO

[Walrusaudio.io](https://walrusaudio.io) は、ペダルのファームウェアを更新するためのシンプルなインターフェースです。

Canvas VolumeにUSB-Cケーブルを接続すると、Chromeベースのウェブブラウザを使用して、お使いのコンピューターからファームウェアアップデートにアクセスできます。

Canvas のロゴをクリックすると、ペダルに現在インストールされているファームウェアのバージョンが表示されます。  
画面の指示に従って、アップデートを開始してください。